

K240.5

1

文部省

中等被服二

〔前〕 半.50

文部省
調査
資料
館
蔵

(112)

昭和二十一年三月一日印刷 同日發行
昭和二十一年三月五日發行 同日發行
(昭和二十一年三月五日文部省検査済)

著作權所有 著者 文 部 省

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE Mar. 1, 1946)

印刷者 東京印刷株式會社
發行所 東京印刷株式會社
中等學校教科書株式會社
代表者 森 井 寅 雄
東京市品川區品川一丁目十二番地
大日本印刷株式會社
代表者 佐久間 長吉郎



洗濯用水	十
主な洗濯剤	十
洗濯用具	十
洗濯に取りかゝる前の用意	十
洗ひ方のいろ／＼	十
すゝぎ・しぼりと干し方	十
仕上げ	十

日常被服の手入れ

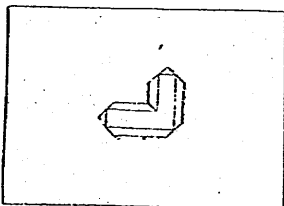
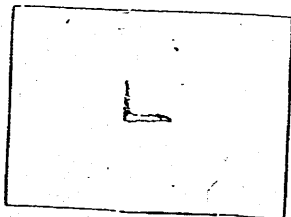


日常の被服を永もちさせることは、一家の経済からも、また衣料國策の上からも、大きな意義をもつてゐます。被服の弱り始めた所をつぐのも、いたみやすい所を最初から補強しておくのも、いたんだ所を繕ふのも、被服を永もちさせる工夫であり、手入れであります。小さくて役に立たなくなつたものや、しまひ込んであるものの活用を工夫するのも、楽しい仕事です。このやうに、隠れたところに行き届いた心づかひをし、怠らず手入れをするのは、わが國女子のゆかしいたしなみの一つであります。

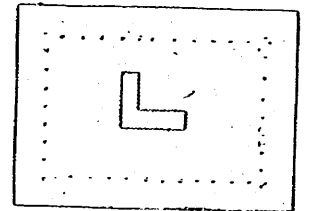
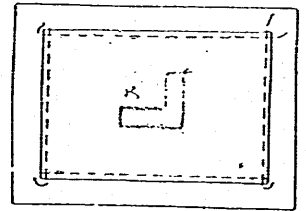
一 繕ひ

(イ)穴つぎ 下着その他の木綿物、スフ・麻織物のかぎ裂きは、圖のやうにつぎます。

總べて、つぎには細い絲を用います。

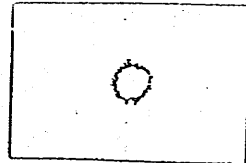
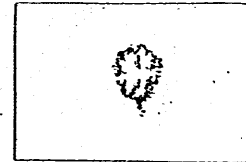
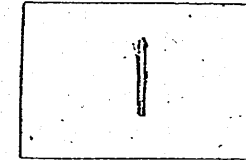


一 日常被服の手入れ



◇ 當て布をするにはどんな注意がいりますか。

◇ 次のやうに切れたり、穴があいたりしてゐるものは、どんな形につぎますか。



(ロ) 布の取りかへ、當て布など いたんだ部分を切り取つて、他の共布と取りかへ、或は裏と表を附けかへることもあります。又、當て布をすることもあります。

◇ 運動服・下ばきに就いて布の取りかへ、當て布などを考へな
◇ 下着・中着はどこか一番いたみやすいてせうか、又どんな縫ひにしますか。

二 補強

(一) 色紙つぎ

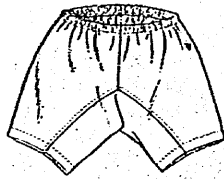
布が弱つて薄くなつたものは、裏から共布を當て、色紙つぎにして補強します。

(二) 製作の時或は使用前の補強

物により部分によつては、豫め補強しておくこともあります。肩當て・居敷當て・膝當てなどを附け、裾下のいたみやすい所を前もつてさしておくなど、皆これでありす。

三 仕立てかへ・仕立て直し

小さくて着られなくなつたものを大きくするには、いろいろな形のまちを入れたり、或は足し布をしたりします。



◇ 下ばきの胯上の短いものや、幅の狭いものはどうしますか。
◇ 運動服上衣の身幅や袖幅の狭いものはどうしますか。
◇ 下着や中着の衿ぐり・袖ぐりの小さなもの、身幅の狭いものはどうしますか。

(四) 附属品の手入れ

- ◇ 風呂敷の補強或は繕ひには、どんな方法がよいでせうか。
- ◇ 下駄の洗ひ方、鼻緒のすけ方はどうしますか。

解き洗ひ

- ◇ 解き洗ひにしなければならぬものは、どんなものですか。
- ◇ 最も簡単に解き洗ひをするには、どんな所を解き離せばよいでせうか。
- ◇ 全部を解き離し、これを元の反物の形に縫ひ合はせて洗ふのは、どんな場合ですか。この仕方にはどんな長所がありますか。
- ◇ 色あひの違ふものを一しよに洗ふと、どんな失敗をひき起すことがありますか。

一 木綿物

下洗ひ・水洗ひ・すゝきなど、まる洗ひの場合と同様にし、乾いたら、板張り仕上げ又は伸子張り仕上げをします。

板張り仕上げ

糊液を用ひ、布片を張り板にはり附け、乾かして仕上げます。はり方には次のやうな方法があります。

(イ) 布の表を内側へ畳み込むやうにして糊液に浸し、全體にしみ込ませたら、手であして平均にしぼり、張り板にはります。

(ロ) 張り板に糊液を刷毛でひき、布の裏側を板面にはります。

◇ 布の裏を上へ向けて板の上に横げ、これに糊液を刷毛でひき附け、布を返して張り板にはる方法もあります。

これらの三つの方法の得失を考へてごらん下さい。

これにしても布目が曲らず、布幅が一樣であるやうにはり附けます。

布が板に落ち着いたところで、殆ど糊液を含まない刷毛で布面をこすつて、糊液が平均に附くやうにし、同時に、少しの小じわもなくします。

- ◇ 色のあせやすいものを下すには、どんな注意がいりますか。
- ◇ はがす時には、どんな注意がいりますか。

張り板は木目の立たない材質で、上下に足の附いたものがよいです。張り物が終つたら、直ぐに洗つて片づけます。

二 絹織物

下洗ひ・水洗ひ等、スフ織物のまる洗ひの場合にならつてし、水洗ひがすんだら、微温湯で二、三回すすぎ、更に水ですゝいでおしぼりにし、しわを伸して乾かします。仕上げ法は多くの場合、アイロン仕上げが無難です。糊附けの必要があるものには、薄い糊液を用ひ、乾いたらアイロン仕上げをします。

三 絹織物

(一) 下洗ひ

冷水又は微温湯に暫くつけて下洗ひをし、おしぼりにして水をきります。物によつては、下洗ひをはぶいてもさしつかへありません。

(二) 水洗ひ

温湯十分に良質の石鹼四―五分の割合の洗濯液に浸します。布の一端を平板の上に取り出して、手ごろの巻き棒に平に巻き取り、巻き終つたら、そのまゝ洗濯液の中に入れ、布の一端を平板の上に取り出して、順々に洗濯刷毛で汚れを落しながら、他の巻き棒に巻き

かへます。巻き終つたら、再びこれを洗濯液の中に入れ、同様にして他の面を刷毛洗ひします(巻き洗ひ)。

◇ 平板の使ひよい方法を考へてごらん下さい。

(三) すゝぎ

洗濯液の代りに微温湯をたらひに入れ、前と同じ順序で巻き棒に巻き返しなが、刷毛でこすつて、布に附いた洗濯液や、布から離れた汚れを落します。次に新たに微温湯をたらひに入れ、巻き棒に巻いた布を片端から解いてくり込み、たらひの中でたぐり返しなが、ら石鹼分を去り、同様の仕方ですゝぎます。

物によつては石鹼を用ひず、水十分に洗濯ソーダ四―五分の割合に溶かした冷液で巻き洗ひをし、汚れの落ちない所だけに石鹼液を附けるやうにして、すゝぎも冷水ですれば、却つて染色の落ちることが少く、すゝぎも簡単です。

(四) 仕上げ

すゝいだら、おししほりにしてから乾かします。銘仙その他普通の平地絹物の仕上げには、板張り仕上げ・伸子張り仕上げ・アイロン仕上げなどを應用します。糊は布海苔液が最も適してゐます。

伸子張り仕上げ

(イ) 適當な樹木・柱又は横木に張り紐を結び、これに張り手の紐を結び附けます。布の兩端にはこれと同じ幅で、長さ一二センチ(約三寸)ぐらゐの丈夫な布を洗濯する前に附けておきます。この端布の一方を張り手の釘にさし、縫ひ代のある方を上へ向け、他の端も同様にして、布目を正しく、中央で少したるみ加減に張りおきます。

◇ 縫ひ代は裏になる方に用します。それはなぜでせうか。

(ロ) 端縫ひのきはと緯の方向の縫ひ目にだけ、下側から一本か二本づつ伸子を打ち(飛び伸子)、縫ひ目のしわを伸して乾かします。

(ハ) 次に縫ひ代のある面に糊液を平均に刷毛びきし、裏返して、同じ刷毛で糊液を附けずにこすつて、糊を平均に附けます。再び縫ひ代のある面を上へ向け直し、糊液の乾かないうちに適宜の間隔を置いて布目を曲げないやうに下側から伸子を打ちます。

(ニ) 乾いたら、兩耳に沿つて少し中央の方へぼかし氣味に、水刷毛で軽く水をひきます。次に飛び伸子だけを殘して他の伸子を去り、兩手の指で兩耳をしごいて伸子跡を消し、張り手をつめ、やゝ強く張つて兩耳を乾かします。

(ホ) 乾いたら飛び伸子を去り、張り手を除いて適宜にたぐり熨み、軽くはたいて布地を柔げ、縫ひ目を解き離し、縫合はせの折り目と兩耳とに、裏から軽くアイロンをかけて伸じます。表裏を取り違へないやうに重ねて熨むか、巻き棒に巻いておきます。

使つた伸子は、揃へて曲げ直しておくやうにします。

糊は普通の絹物には布海苔液が適します。糊の濃さは、水十分に二―四分の割合が適當です。

◇ 伸子張り仕上げと板張り仕上げとの得失を比べてごらん下さい。

四 毛縁物

毛織物の洗濯で最も困るのは、收縮すること、それは、

(イ) 石鹼その他の洗濯剤の濃い時、

(ロ) 洗濯液の温度が高い時、

― 日常洗濯の手入れ

(ハ) はげしくもんで洗ふ時、

(三) 洗濯液の中に長く置いたり、温液で濡れたまゝ、積み重ねておいたりした時、

などによく起ります。しかし、近頃手に入る毛織物は、いづれもスフとの混紡織物ですから、種毛織物に比べて、割合に収縮することは少いやうです。

(二) 下洗ひ

微温湯が冷水に暫く浸し、軽くおしつけて下洗ひをし、水をおし
きります。

三
本
洗
ひ

温湯千分にアンモニア水八—十分及び良質の石鹼四分ぐらゐの割合の洗濯液の中で、二、三回おしつけ、両面を刷毛洗ひし、再び洗濯液に入れておしつけてから、板の上で、液をおし去り、温湯でよくすすぎ、更に十分水ですくいだら水をおしきり、しわを伸して乾かしなす。乾いたら漉りを與へ、裏面からアイロンをかけて仕上げます。

洗濯液として、温湯十分に合成新洗剤三―四分の割合の洗濯液を用ひれば、石鹼を用ひた場合より、一般に色が落ちることも収縮することも少いものです。

又、全體の汚れがひどくない無地物などには、微温湯千分に洗ひ上げますと、石鹼を用ひて下手なすゝぎ方をした場合に見られるやうな不結果がありません。

五
交綫物

としてび濡します。傾へばスフと細短纖維との混紡織物のやうなものは、スフ織物の洗濯法にならつて洗ひます。

絹み物類の洗濯

毛織物、毛糸入りスワースの絹織物類は、毛織物の場合と同じやうな洗濯液の中に浸し、強くもむことを避け、つかみ洗ひ又は、おしつけ洗ひをして汚れを落します。次に洗濯液を去り、少量のアンモニア水又は洗濯ソーダを加へた温湯の中に入れ、前と同じ仕方で十分石鹼分を溶かし去り、最後に水ですくいで傾けた平板の上に取り出し、兩手でおして水をきり、形を整へて乾かします。乾いたら湯伸び仕上げをします。

◇ 大きな絹み物を干す場合にはどんな注意がいらすか。

湯仰し仕上げ

湯伸し釜に湯を煮え立たせ、盛んに出る蒸氣に乾いた絹み物を當て、適度に引つ張つて形を整へます。

又、古い毛糸のくせを直すにも應用されます。

◇ 湯伸し釜のない場合には、どうしたらよいでせうか。

二 洗濯一般の注意

洗濯用水

井水・河水など天然の水には、必ず多少の物質が溶けてゐます。それら溶解物のうち、洗濯上一番よくないのはカルシウム分・マグネシウム分・鉄分で、早てカルシウム分は最も普通に含まれてゐるものです。これらを多量に含む硬水を用ひると、石鹼の泡立ちがわるく、白濁やかすを生じます。それは石鹼をむだにするばかりでなく、かすが繊維に附着して織物の手ざはりや光澤を損じ、特に絹物や毛織物の場合にそれが著しいものです。

硬水を最も簡単に軟化するには、硬度にもよりますが、大體、水千分に洗濯ソーダー一三分を加へます。

雨水は天然の蒸溜水ですから、洗濯には最も適してゐます。

主な洗濯剤

一 石鹼

石鹼は最も有効な洗濯剤ですが、そのきめを十分に發揮させるためには、適當な濃度が必要です。あまり薄過ぎると、汚れを落す作用が減じます。大體、溫湯千分に石鹼四―五分の割合のものが適當で、この程度の濃さですと、よく泡立ちます。同じ石鹼でも、泡立ちのよい時が汚れがよく落ち、泡立ちの盛んな間はきめがあります。

二 合成新洗剤

大體、石鹼に似たきめがあり、しかも石鹼に比べて、羊毛製品を乾燥させたり、硬水や酸によつてきめを減じたりすることが少いの

洗濯ソーダは水に溶けて弱アルカリ性の液となり、汚れを落すきめがあります。石鹼には並みに及びません。主に用水を軟化したり、石鹼を節約する目的などに、その適量を用ひられます。

四 あく

灰を水で浸出して得る液は、炭酸カリが主成分で、洗濯ソーダの代りに用ひることができます。

五 アンモニヤ水

アンモニヤ水は弱いアルカリで、動物性繊維特に羊毛製品の洗濯に、石鹼の使用量を減する目的で使はれます。

◇ アンモニヤ水を貯へるには、密閉しておかなければなりません。なぜでせう。

六 その他

むくろじの果皮、さいかちのさや、米糠・布海苔なども用ひることがあります。

洗濯用具

一 たらひ

使用後はいつでもよく水で洗つて、日かげの乾いた場所に片づけ、直接土間などに置かないやうにします。

二 洗濯板

木綿物の洗濯には使ひますが、毛・人絹・スフなどには用ひない方が安全です。洗濯板の凹凸は、洗濯物をこするたためのもではありません。洗濯物がすべらないやう、又、洗濯液を適度に板の上にも保たせるやうにして、その上で押し出し洗ひを行なふのです。

三 平板

二 洗濯一般の注意

二 洗濯一般の注意

絹・毛・人絹等を刷毛洗ひする場合に用ひます。

四 洗濯刷毛

しゅうろ製・馬毛製などがあります。絹・毛・人絹・スフなどには馬毛製の比較的柔かなものが適し、木綿にはしゅうろ製でさしつかへありません。使用後はよく水で洗ひ、乾かしてしまひます。

洗濯に取りかゝる前の用意

一 洗濯物の用意

(イ) 洗濯するものとは、解き洗ひにするものとは、豫め適當に始末します。

(ロ) ほこりを拂ひ、全體に目を通し、汚れのひどい所には目じるしを附けておきます。

(ハ) 色物を始めて洗濯する場合は、縫込みのやうな不要の部分を豫め洗濯液で洗つてみて、色が落ちないかどうかをためしてから、取りかゝります。もし色が落ちるやうでしたら、洗濯液の作り方・温度、洗ひ方などを加減すると共に、手早く乾かす工夫をします。

二 洗濯物の分類

繊維の種類や織り方によつて、洗濯をする場合の注意を異にするのは當然です。又、織り方や色が著しく違へば別々に洗濯しなければならぬし、用途のあまり違ふ物は區別して洗ふがよいのです。

- ◇ 繊維の種類をかまはず洗濯した結果は、どうなりすか。
- ◇ 洗濯液をむだにしないやうに引き續き利用するには、どんな注意がいりますか。

洗ひ方のいろ／＼

石鹼その他の洗濯剤の濃度や温度などが適當であつても、單に洗濯物

つかみ洗ひ

おし出し洗ひ

おしつけ洗ひ

踏み洗ひ

たゝき洗ひ

しごき洗ひ

刷毛洗ひ

などがあります。多くは手つきによつて區別した名で、繊維の種類、織物の組織、その他によつてそれ／＼適當がありますから、その選擇を誤らないやうにしなければなりません。

すゝぎ・しぼりと干し方

一 すゝぎ

洗濯液で洗つたものは、洗濯剤や、繊維から取れた汚れが布地にしみ込んでゐますから、これを十分すゝぎ去ります。この場合には數回水を取りかへ、品物の大きさに應じ、それ／＼つかみ洗ひ・おしつけ洗ひ、又は踏み洗ひを加味するのが有効です。

洗濯ソーダ・アンモニヤ水、そのほか水に溶けやすい洗濯剤を用いた場合には、冷水で二、三回すゝげばきれいになります。石鹼を用いた場合には直ぐに冷水ですゝぐと、石鹼分が布地に残りがちで、特に絹物や毛織物の場合には、布の味や色澤などを損ずるゝそれがあつますから、先づ微温湯で數回すゝぎます。この際、少量の洗濯ソーダ又はアンモニヤ水を加へて用ひれば、石鹼分は一層よく取れます。最後に清水でよくすゝぎます。

二 しぼり

すゝいだら、乾きを速めるため水をきります。木綿物は固くしぼつ

てもよいのですが、一般には平板の上に盛み上げ、両手であしつくて水をきるやうにします。

◇ 絹・毛・人絹・スフなどを、強くねぢつてしぼるとどうなりますか。

三 干し方

しぼつたものは、しわを伸ばし、形を整へて乾かしますが、色のあせやすい色物は日かげに干します。乾かすには、その形によつて、物干竿・衣紋掛・網などに掛けるか、或は張り手に張ります。又、毛糸・人絹の編み物のやうに、濡れると伸びて形のくづれやすいものは、なるべく張力がかゝらないやうに注意して干します。

仕上げ

洗濯したものは、その用途に適するやうに、仕上げをします。どんなに上手に洗つても、仕上げがわるいと見ばえがしません。

仕上げ用の糊としては、白い物には、生麸糊・姫糊のやうな澱粉類を、色物には、布海苔又は前記の澱粉類を用ひます。澱粉類は水を加へ、軽く煮て糊とします。布海苔は数時間温湯に浸し、中火でよく煮て糊とし、濾し袋で濾して用ひます。袋の中に残つた濾しかすは再び温湯を加へて煮てから更に濾して用ひます。

糊液は濃いめに作つておき、これを適宜に薄めて用ひます。

糊付けには、すゝいでしぼつて直ぐ行なふ場合と、一旦乾かしてから行なふ場合とがあります。糊のきゝめは糊の種類や濃さによるほか、布に含まれる水分の多少及び糊付け後のしぼり方などによつて、著しく左右されます。

文部省調査局刊行課寄贈

[中] ¥ 30.

(112)

中等被服二

文部省